



杜の都女性科学者ハードリング支援事業

www.morihime.tohoku.ac.jp

1. 取り組みの概要

平成 18 年度から始まった文部科学省振興調整費「女性研究者支援モデル事業」に、東北大学の申請した「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」が採択されることになりました。この事業では、女性科学者のキャリアパスにおいて障害となる様々なハードルを乗り越えるために、(1)育児・介護支援、(2)環境整備、(3)次世代支援の3つを柱とするプログラムを、地域との連携をはかりつつ全学的に展開します。

2. 東北大の男女共同参画の歴史

東北大学は大正 2 年（1913 年）に、我が国の大学として初めて 3 名の女子学生を理学部に入学させました。その伝統の下、平成 13 年に全学的組織として男女共同参画委員会が発足し、「男女共同参画推進のための東北大学宣言」（平成 14 年）を指針として、シンポジウムの開催、「男女共同参画奨励賞（沢柳賞）」の創設、アンケート活動、相談窓口の開設、学内保育園の設置など、男女格差の是正、研究・労働環境の改善、両立支援体制の確立などの取り組みを展開してきました。しかしながら、構成員の多くを自然科学分野が占めるという大学の特性もあり、現時点での女性教員比率は 7.7%（全教員 2,665 名中女性 204 名）、自然科学分野では 6.3%（2,253 名中 142 名）に留まっており、新たなアクションが求められています。

3. サイエンスエンジェル制度

女子高校生や女子大学生が科学者を目指すときに身近なロールモデルが少ないことにより、次世代を担う女性科学者の卵が非常に不足しています。本モデル事業では、博士課程進学的女子学生支援や研究者を志す女子学生啓発のためにサイエンスエンジェル（SA）制度を創設します。公募により任命された SA は次のような任務を担います。

- ・ 女子学生ネットワークの整備（ホームページ創設管理・メーリングリスト管理等）
- ・ オープンキャンパスでの女子学生セミナーに参加
- ・ 母校への出張セミナー、出前授業のお供（今年度は仙台市内での活動のみ）
- ・ 東北大学サイエンスカフェにファシリテーターとして参加
- ・ 東北大学女性研究者フォーラム手伝い

4. 育児と研究の両立支援

女性科学者のキャリアパスにおいて最も高いハードルは、研究生活と出産と育児・介護との両立です。本モデル事業では、育児・介護支援のために男女共同参画委員会と連携し、短時間勤務や休業制度の弾力的運用の検討、試行および実施を行います。また、育児・介護との両立を考慮した研究・教育業績評価制度についても検討し、提案を行います。両立支援推進のために、支援要員（授業代講非常勤講師、実験補助者、事務補佐員等）を配置するとともに、ベビーシッター経費を支給します。これらの両立支援経費支給は公募制になります。

5. 環境整備プログラム

女性科学者が研究を継続するためには、さまざまな環境整備が必要です。東北大学では平成 17 年度から学内保育園として川内けやき保育園が開設されていますが、子供の軽度な病気の場合には預かることができません。これまで東北大学病院には病後児保育施設が教室員会により運営されてきましたが、その利用は星陵地区に限定されていました。そこで、本モデル事業の支援により、病院内病児保育施設を全学的に利用できるよう人員の拡充を図ります。また、これまで女性用トイレ・休憩室等の環境整備について、各部局で取り組まれてきましたが、未整備の部局に対しては本事業で提案、助言を行い、財政的な補助も行います。

6. 交流

絶対数において少ない女性科学者は、マイノリティーとして心理的なハードルを感じることも多いことが指摘されています。本モデル事業では、自然科学系部局毎の、また全学的な女性科学者（学生から教員まで含む）の情報交換と交流を図るためのネットワークについて、上記 SA により整備します。さらに、21 世紀 COE「男女共同参画社会の法と政策」（法学研究科・辻村みよ子代表）との連携により、自然科学系と人文社会系の枠を超えた「東北大学女性研究者フォーラム」を開催します。